

平成 26 年 9 月 16 日

各 位

宮城県ラグビーフットボール協会  
会 長 福 富 哲 也

第 11 回全国小学生タグラグビー選手権大会  
宮城県予選大会の開催について（ご案内）

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、当協会の活動に対し日頃よりご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、このことについて下記のとおり開催することとなりました。本年も同大会を開催するに当たり、大変お忙しいことと存じますが、貴校・貴団体の参加につきまして特段のご配慮をお願い申し上げます。

記

開 催 日	平成 26 年 11 月 30 日（日）
会 場	シェルコム仙台 仙台市伊泉区野村字新桂島前 48 ※当日のスケジュールについては、参加集約後に改めて通知します。
参加区分	小学 4 年生から 6 年生で編成したチームで、7 名以上 10 名以下で構成
参加申込	11 月 10 日までに、Email: <a href="mailto:tag_miyagi08@yahoo.co.jp">tag_miyagi08@yahoo.co.jp</a> に申込書を添付して送信ください。
参 加 費	1 名 300 円 ※当日受付の際納入。保険代含む ※7 名のチームの場合（300 円×7 名=2,100 円）
送付資料	03 第 11 回大会宮城予選_実施概要書 09 第 11 回参加申込書 15 全国小学生タグラグビー選手権レフリングの指針【参考】 16 資料シューズ画像【参考】 20A4flyer（大会チラシ）【参考】
問合せ先	宮城県ラグビーフットボール協会 普及委員会 日野紀幸 《携帯》 090-4634-8021 《E-mail》 <a href="mailto:hino_chan0889@yahoo.co.jp">hino_chan0889@yahoo.co.jp</a>

S U N T O R Y C U P

JAPAN KID'S  
TAG RUGBY

C H A M P I O N S H I P

第 11 回全国小学生タグラグビー選手権大会 地区予選大会書

予選・ブロック大会

実施概要書

平成 26 年

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会  
全国小学生タグラグビー選手権大会運営委員会

# 目次

大会概要	P. 2
大会組織図	P. 3
ブロック大会担当者	P. 4
県予選大会担当者	P. 5
年間スケジュール	P. 6
県予選・ブロック大会実施要項準則	P. 7
参加申込書について、参加申込書の書き方	P. 8
決勝大会要項	P. 10
決勝大会規則	P. 11
決勝大会競技規則	P. 14
決勝大会規則・競技規則補足	P. 17

■ 予選・決勝など大会実施に関するお問合せ  
サントリーカップキッズタグラグビー事務局 島田／安達  
〒105-0004  
東京都港区新橋5-9-1 新橋5丁目ビル1F CIC内  
TEL:03-5777-6625 FAX:03-5777-5351  
Email:tagrugby@cicinc.co.jp

## 大会概要

---

大会名称 SUNTORY CUP Japan Kid' s Tag Rugby Championship

サントリーカップ 第11回全国小学生タグラグビー選手権大会

目 的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。

主 催 (公財)日本ラグビーフットボール協会  
関東ラグビーフットボール協会  
関西ラグビーフットボール協会  
九州ラグビーフットボール協会

主 管 各都道府県ラグビーフットボール協会

後 援 文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社

特別協賛 サントリーホールディングス株式会社

協 賛 株式会社シミズオクト

協 力 サントリーサンゴリアス

競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会、タグラグビー標準競技規則をもとにした大会規則とする。

出場資格 小学生4～6年生(日本の学期制による)1チーム・7～10人とする。

大会方式 各ブロックの代表が決勝大会に出場する

・決勝大会

期 間 平成27年3月(調整中)

会 場 調整中

・県予選・ブロック大会

期 間 平成26年10月～平成27年1月 予定

会 場 各主管団体が決定 ※体育館などの屋内施設での開催も可能とする。

・大会事務局 ※日本協会より委託して下記とする。

サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会事務局

〒105-0004

東京都港区新橋5-9-1 新橋5丁目ビル1F CIC内

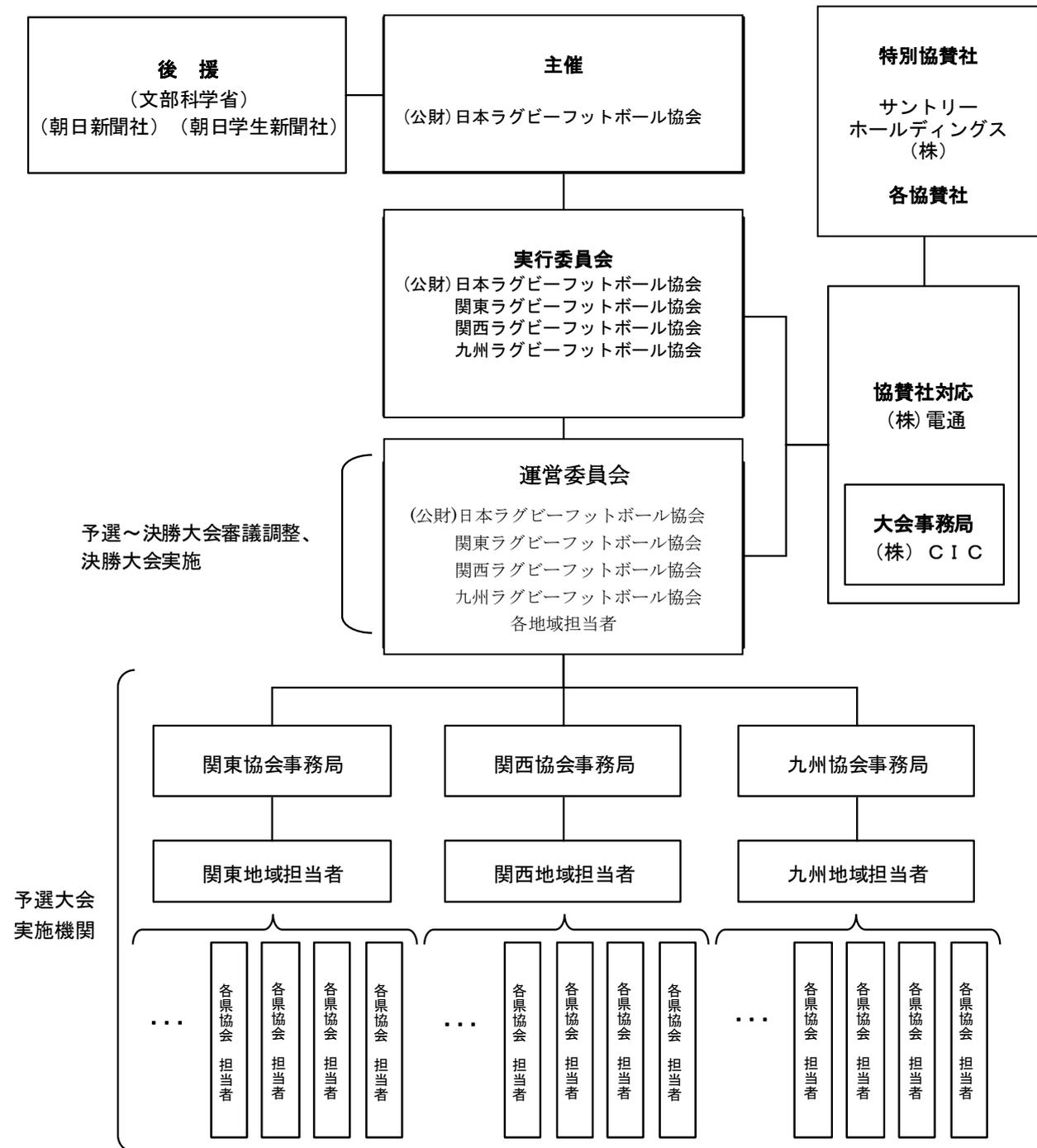
TEL:03-5777-6625 FAX:03-5777-5351

Email:tagrugby@cicinc.co.jp

・公益財団法人日本ラグビーフットボール協会公式ウェブサイト内タグラグビーサイト

<http://www.rugby-japan.jp/tag.html>

# 大会組織図



## ブロック大会担当者一覧

No.	管轄	ブロック	所属	氏名
1	関東	北海道	北海道ラグビーフットボール協会	久保田 智
2		東北	岩手県ラグビーフットボール協会	佐藤 徳代
3		北関東	栃木県ラグビーフットボール協会	鈴木 正俊
4		中関東	埼玉県ラグビーフットボール協会	高濱 剛
5		東京	東京都ラグビーフットボール協会	亀田 慎也
6		南関東	山梨県ラグビーフットボール協会	佐野 芳仁
7	関西	北陸	福井県ラグビーフットボール協会	畠中 豊
8		東海	愛知県ラグビーフットボール協会	渋谷 俊治
9		近畿	大阪府ラグビーフットボール協会	永川 信平
10		中国	岡山県ラグビーフットボール協会	長手 信行
11		四国	徳島県ラグビーフットボール協会	堂前 孝司
12	九州	九州	九州ラグビーフットボール協会	三原 一樹
13		沖縄	沖縄県ラグビーフットボール協会	仲間 貴之

# 県予選大会担当者一覧

No.	ブロック	都道府県	所属	氏名
1	北海道	函館支部	北海道ラグビーフットボール協会	高橋 満
2		札幌支部	北海道ラグビーフットボール協会	池史直
3		空知支部	北海道ラグビーフットボール協会	藤岡 慎吾
4		富良野支部	北海道ラグビーフットボール協会	志賀 光
5		根釧支部	北海道ラグビーフットボール協会	佐々木 博
6		北見支部	北海道ラグビーフットボール協会	原田 直樹
7		十勝支部	北海道ラグビーフットボール協会	五十嵐 真佐紀
8		胆振支部	北海道ラグビーフットボール協会	名和 誠
9		旭川支部	北海道ラグビーフットボール協会	伊藤 親
10	東北	青森県	青森県ラグビーフットボール協会	舘山 美智徳
11		岩手県	岩手県ラグビーフットボール協会	佐藤 徳代
12		宮城県	宮城県ラグビーフットボール協会	佐々木 友良
13		秋田県	秋田県ラグビーフットボール協会	伊藤 清孝
14		山形県	山形県ラグビーフットボール協会	森暢仁
15		福島県	福島県ラグビーフットボール協会	菌部 一寛
16	北関東	栃木県	栃木県ラグビーフットボール協会	鈴木 正俊
17		群馬県	群馬県ラグビーフットボール協会	丹沢 学
18		新潟県	新潟県ラグビーフットボール協会	樋口 憲哉
19	中関東	茨城県	茨城県ラグビーフットボール協会	渡邊 修
20		埼玉県	埼玉県ラグビーフットボール協会	田村 文明
21		千葉県	千葉県ラグビーフットボール協会	高濱 剛
22	東京	23区	東京都ラグビーフットボール協会	石田 龍雲
23		多摩地区	東京都ラグビーフットボール協会	関 隆史
24		武蔵野地区	東京都ラグビーフットボール協会	亀田 慎也
25	南関東	神奈川県	神奈川県ラグビーフットボール協会	井出 郁夫
26		山梨県	山梨県ラグビーフットボール協会	佐野 芳仁
27		長野県	長野県ラグビーフットボール協会	中村 良知
28	北陸	石川県	石川県ラグビーフットボール協会	遠田 滋
29		富山県	富山県ラグビーフットボール協会	四方田 光男
30		福井県	福井県ラグビーフットボール協会	畠中 豊
31	東海	静岡県	静岡県ラグビーフットボール協会	圓福 悟
32		愛知県	愛知県ラグビーフットボール協会	渋谷 俊治
33		三重県	三重県ラグビーフットボール協会	山田 洋
34		岐阜県	岐阜県ラグビーフットボール協会	岸野 幹根
35	近畿	滋賀県	滋賀県ラグビーフットボール協会	小松 且弥
36		京都府	京都府ラグビーフットボール協会	太田 隆司
37		大阪府	大阪府ラグビーフットボール協会	奥田 行弘
38		兵庫県	兵庫県ラグビーフットボール協会	牧野 友規
39		奈良県	奈良県ラグビーフットボール協会	米山 博文
40		和歌山県	和歌山県ラグビーフットボール協会	玉出 慎
41	中国	鳥取県	鳥取県ラグビーフットボール協会	山口 明茂
42		島根県	島根県ラグビーフットボール協会	新田 紀久
43		岡山県	岡山県ラグビーフットボール協会	坂本 敦
44		広島県	広島県ラグビーフットボール協会	森川 清司
45		山口県	山口県ラグビーフットボール協会	有馬 章治
46	四国	香川県	香川県ラグビーフットボール協会	香西 尚治
47		徳島県	徳島県ラグビーフットボール協会	遠藤 芳治
48		愛媛県	愛媛県ラグビーフットボール協会	竹本 英貴
49		高知県	高知県ラグビーフットボール協会	西村 景男
50	九州	福岡県	福岡県ラグビーフットボール協会	結城 利治
51		佐賀県	佐賀県ラグビーフットボール協会	伊藤 正光
52		長崎県	長崎県ラグビーフットボール協会	松川 祐一
53		熊本県	熊本県ラグビーフットボール協会	田中 寛
54		大分県	大分県ラグビーフットボール協会	上田 雄一
55		宮崎県	宮崎県ラグビーフットボール協会	大森 博
56		鹿児島県	鹿児島県ラグビーフットボール協会	中山 大樹
57	沖縄	沖縄県	沖縄県ラグビーフットボール協会	仲間 貴之

# 年間スケジュール

日程	内容	地域協会
4～5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画会議</li> <li>・協賛社調整</li> <li>・実行委員会組織、大会概要決定、 予算計画、開催日など検討</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域担当者会議開催</li> <li>・大会ルール検討</li> <li>・予選大会予算確認、全体スケジュール確認</li> <li>・各ブロック、都道府県予選責任者決定</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ポスター・チラシを地域へ配布</li> <li>日本協会プレスリリース</li> <li>公式サイト 開催告知</li> <li>◆マニュアル・報告書等 資料を配布</li> <li>受付チーム数の集約</li> </ul>	◆受付チーム数の報告
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>受付チーム数の確認</li> <li>◆予選大会用備品発送</li> </ul>	予選大会参加受付開始 ◆受付チーム数の途中報告
10月～	<b>全国予選大会開始</b>	予選大会開催
11～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ブロック大会用競技備品発送</li> <li>決勝大会、会場施工会議</li> </ul>	◆大会報告書提出  ブロック代表決定戦
1月中	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆決勝大会出場チーム確認</li> <li>・決勝大会出場チームに大会の案内</li> </ul>	
1月下旬～	決勝大会前実行委員会会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開閉会式次第、代表者会議資料確認、 役員発送文書、招待者、その他事務局打合せ</li> <li>決勝大会準備</li> </ul>	
3月	<b>決勝大会実施 3月初旬予定</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書作成</li> <li>・収支決算</li> <li>※普及委員会定例会議に合わせて反省会、次大会準備会</li> </ul>	

## 宮城県予選実施要項準則

- 大会名称 サントリーカップ 第11回全国小学生タグラグビー選手権大会宮城県予選大会
- 目的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。
- 主催 (公財)日本ラグビーフットボール協会
- 主管 宮城県ラグビーフットボール協会、仙台市ラグビーフットボール協会
- 後援 文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社
- 特別協賛 サントリーホールディングス株式会社
- 協賛 株式会社シミズオクト
- 協力 サントリーサンゴリアス
- 期間 平成26年11月30日
- 会場 シェルコム仙台
- 競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。
- 競技方法 プール戦とトーナメント戦の併用を基本とするが、参加チーム数により決定する。
- 参加資格 (1) 小学生4~6年生(日本の学期制による)で編成したチームで、学年の編成内容は問わない。  
(2) 原則、単一小学校の参加とする。但し、タグラグビー普及の地域差等により単一小学校でチームが組めない場合は、各都道府県の判断で出来るだけ多くの小学生が参加できるよう参加資格の調整を可とする。  
(3) 参加チームは成人2名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。  
(4) 帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。  
但し、予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。  
(5) 帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。  
但し、必ずしも小学校長の承認がなくても、帯同コーチの責任において参加することも可能とする。  
(6) 参加登録費(保険料含む)を納める。  
※ 各協会で調整可。  
※ 参加資格について不明の点は三地域協会、または大会事務局にお問い合わせください。
- 罰則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。
- 安全対策 (1) 大会期間中は主管団体が所定の救急指定病院を定める。  
(2) 大会期間中は、主管団体が担当医師及びメディカルスタッフ、ウォーターボーイを任命する。  
(3) 試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。  
(4) 大会期間中の保険は主催者(JRFU)でまとめて加入する。
- 健康管理 (1) 大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。  
(2) 試合中以外での病気傷害についてはチーム内で処理すること。  
(3) 参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。
- 肖像権 大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。  
※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム等に使用される可能性がある。

費用 (1) 旅費交通費支給はなし。  
(2) 参加費は1人300円とする。(例:1チーム7人の場合、300円×7人=2,100円)  
(3) 大会当日、チーム受付時に支払うこととする。

表彰 (1) 優勝チーム、準優勝チームを表彰する。  
(2) その他、各予選大会責任者の判断にてチームを表彰する。

その他 (1) 運営にかかる費用は別途定める。  
(2) 開閉会式は各大会にて別途定める。  
(3) 都道府県予選大会の公式戦で使用するタグセット、タグボールは主管団体が用意する。  
(4) ブロック大会はサントリーカップ公式試合球を使用する。  
(5) 各チーム帯同コーチ1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること。

申込期限 平成26年11月10日(月)

申込先 Email:[tag\\_miyagi08@yahoo.co.jp](mailto:tag_miyagi08@yahoo.co.jp)に申込書を添付して送信ください。

宮城県予選大会事務局。

宮城県ラグビーフットボール協会普及委員会 佐々木 友良  
〒988-0074 宮城県気仙沼市本町2-6-3  
TEL:080-1803-6050 FAX:0226-22-6254

宮城県ラグビーフットボール協会公式ウェブサイト  
<http://www.miyagi-rugby.jp/>

## 参加申込書について

---

### ■参加申込書

事務局が作成した参加申込用紙を標準としますが、

既存大会の併用や、各協会のフォーマットに則った参加申込書でも構いません。

その場合はチーム責任者の氏名・連絡先、参加選手の氏名・学年・性別・生年月日（主催団体が保険に加入する際必要な情報等）については必ず把握してください。また、別途必要記入事項があれば、備考欄をご利用ください。

事務局作成の参加申込書は大会公式ウェブサイトダウンロード出来ます。

## 参加申込書の書き方

---

■以下の2つの欄は主管団体で利用してください。

### 【受付 No.】

主管団体側が管理し易いようにナンバー等を記入してください。

### 【大会名称】

参加チームを受付けた予選大会の名称を記入してください。

■以下、参加者記入欄（太枠の内側が参加者の必須記入事項になります。）

### 【チーム名】

参加チームの名称を記入する欄です。例：東京都港区立新橋小学校タグラグズ

※チーム名には必ず小学校名か、地域名を入れるようにご指導下さい。

チーム名の最大文字数は20文字までとします。

小学校名、地域名などは略省表記でも構いません。

### 【帯同コーチ1・2】

帯同コーチ（2名分）の記入欄です。

氏名、及び緊急時の連絡用に携帯電話番号を記入して貰ってください。

### 【出場選手1～10】

出場選手の名簿欄です。最低でも7名で登録してください、また最高の登録人数は10名です。

氏名、小学校名、学年、性別、生年月日を記入して貰ってください。

氏名は漢字で読みやすく、読み仮名もカタカナで記入、小学校名も同様とします。

※生年月日は主管団体が保険に加入する際必要な情報となります。

### 【チーム責任者誓約欄】

チーム責任者として参加と大会規則等遵守の誓約をする欄です。

上記帯同コーチのうちどちらか1名がチーム責任者となって記入しなければなりません。

チーム責任者の氏名と住所、電話番号などを明記してもらい、印鑑を押して貰ってください。

※その他、必要事項、補足等あれば、備考欄をご利用ください。

## 決勝大会要項

---

大会名称 サントリーカップ 第11回全国小学生タグラグビー選手権大会

目的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。

主催 (公財)日本ラグビーフットボール協会

主管 関東ラグビーフットボール協会

後援 文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社

特別協賛 サントリーホールディングス株式会社

協賛 株式会社シミズオクト

協力 サントリーサンゴリアス

期間 平成27年3月(調整中)

会場 調整中

競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会タグラグビー競技規則に準ずる。

競技方法 ブロック予選を勝ち抜いたチームが出場し、次の方式で行う。

- ① 出場チームを抽選で4チームずつの6プールに分け、総当たり戦で1位、2位、3位、4位を決定。
- ② 各プール1位と各プール2位グループの上位2チームはカップ、プレート決勝トーナメント戦へ進出。
- ③ カップトーナメント出場2チームを除く各プール2位のチームと、各プール3位のチームの上位4チームがボウルトーナメント戦へ進出。
- ④ ボウルトーナメント出場4チームを除く各プール3位のチームと、各プール4位のチームが、シールドトーナメント戦へ進出。

参加対象 各ブロックの代表チーム ※予選時の登録メンバー

罰則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。

安全対策 (1)大会期間中は主催者で所定の救急指定病院を定める。  
(2)大会期間中は主催者が担当医師及びメディカルスタッフを任命し、試合中の傷害については現場において応急の医療処置を施すが、事故等の責任はチーム責任者が負うものとする。  
(3)試合中以外での病気傷害については参加者の負担とする。  
(4)大会期間中の保険は主催者で加入する。

健康管理 (1)大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。  
(2)参加選手は全員保険証またはそのコピーを持参し、大会期間中チーム責任者が管理すること。

費用 大会当日の昼食については主催者が用意する。交通費・宿泊費については一部補助。

表彰 (1)カップ、プレート、ボウル、シールドトーナメントの優勝チーム  
(2)カップトーナメント準優勝チーム

開閉会式 別途定める。

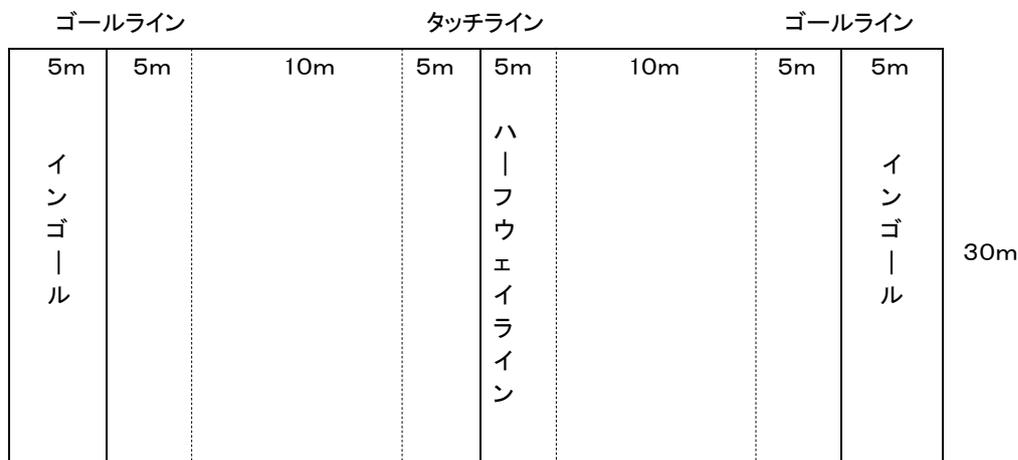
## 第11回大会 決勝大会 大会規則

### 1 グラウンド

グラウンドサイズは横30m × 縦40m(ゴールラインからゴールライン)、インゴール(ゴールラインからデッドボールライン)は各5mずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

#### ★サントリーカップ用のグラウンド



### 2 用具

- (1) 大会期間中に使用するタグセット、タグボール、ピブスは主催者で用意したものを使用する。
- (2) ボールは4号球を使用し、空気圧は0.5 ~ 0.6kg/c m<sup>2</sup>。
- (3) タグは日本協会規定サイズ(50 mm × 375 mm)。

### 3 チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる5名のプレーヤーと入替可能な2名以上5名以下のプレーヤーから成り、原則として予選大会エントリー時の登録のまま決勝大会に出場すること。ただし、プレーヤーの引越し等が生じてチームの人数が5名~6名になった場合はこの限りではない。その際は、帯同コーチは試合出場ができないプレーヤーについての申立書、転校を証明する書類等を大会本部に提出し、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。
  - ① コーチは決勝大会の各試合において、後半開始時まで登録選手を必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。
  - ② 負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが6名以下になった場合、公式試合は行えない。
- (2) 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
- (3) 帯同コーチは成人2名とする(そのうち1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること)。コーチは試合中に次のことができる。
  - ① 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
  - ② グラウンドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。
  - ③ グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
  - ④ ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水を行うこと。
  - ⑤ グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。
- (4) 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。
- (5) レフリー、アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリー、競技役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたる判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

#### 4 プレーヤーの服装

(1) プレーヤーの服装については以下の通りとする。

- ① チームで統一された、運動に適した服装(学校体操着など)  
運動靴またはトレーニングシューズ。スパイクの類は認めない※詳細は別紙資料1を参照  
また、スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に事務局にお問合せ下さい。

(2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。

- ① 髪留め(ゴム製)
- ② めがね(試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを着用することが望ましい)

(3) 以下の物については着用を認めない。

- ① 手袋(タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため)
- ② ギブス等医療装具(着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから)
- ③ その他、タグラグビーをプレーする上で必要ない物

#### 5 選手の入替え

(1) 入替は以下の時に何度でも可。

- ① ポイント(トライ)後
- ② ハーフタイム開始時
- ③ 負傷でゲームが中断した時

(2) 入替は帯同コーチが第3アシスタントレフリーに申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない(時間は継続)。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

(3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

#### 6 試合時間

(1) 試合時間は前半7分ーハーフタイム1分ー後半7分とする。

(2) チームはハーフタイムには、サイドチェンジを行なう。ハーフタイムはサイドチェンジおよび給水を行う時間とし、自チームベンチに戻ることはできない。

また、プレーヤー後半開始時には競技再開ができる位置にいないなければならない。

レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたりと判断した場合、相手側のブリーパスによる再開を行う。

#### 7 レフリー

(1) レフリー1名 アシスタントレフリー2名、第3アシスタントレフリー1名とする、

(2) レフリー及び第3アシスタントレフリーは主催者が指名する。アシスタントレフリー2名については、全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。

(3) レフリーはグラウンド内で判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。

(4) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。

- ① レフリーの判定の補佐。
- ② 選手の入替えの補佐。
- ③ 負傷者のための試合停止の要請。
- ④ 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。

(5) 第3アシスタントレフリーはグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。

- ① 選手の入替の管理(全員出場の確認を含む)
- ② 得点の確認
- ③ チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告並びにレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。

(6) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。

(7) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。

① プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。

② プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。

レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

## 8 試合時間の管理と試合の記録

(1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。

(2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。

## 9 試合終了(ノーサイド)

試合終了(ノーサイド)はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

## 10 試合の勝敗について

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

## 11 決勝大会におけるプール戦、トーナメント戦

詳細は以下の通りとする。

(1) プール戦

① 6プール4 チームによる総当り戦方式とする。

② 試合の結果に応じて、チームに勝ち点を与える。勝ち点は、勝ち 3点、引き分け 2点、負け 1点、棄権 0点とする。

③ 不戦勝には勝ち点 3と得点 5点を与える。不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0点とする。

④ プール戦での総勝ち点が最も高い各プール1位4チームと、各プール2位の中の上位2チームが、カップ・プレート決勝トーナメントへ、残りの各プール2位の4チームと各プール3位の中の上位4チームが、ボウル決勝トーナメントへ、残りの各プール3位2チームと各プール4位6チームがシールド決勝トーナメントに出場する。

⑤ プール戦でポイントが同数のチームが複数出た場合は下記の順で順位を決める。

(ア) 直接対戦における勝者チーム。

(イ) プール戦における総得失点差。

(ウ) 主催者の定める方法による抽選。

⑥ 決勝トーナメント進出のための各プール2位・3位の順位決定方法は下記の順とする。

(ア) 総勝ち点が高いチーム

(イ) 総勝ち点と同数の場合、

① プール戦における総得失点差

② 主催者の定める方法による抽選

(2) 決勝トーナメント

① カップ・プレート決勝トーナメントの勝者はカップトーナメントに、敗者はプレートトーナメントに進出する。

② ボウル・シールド決勝トーナメントの勝者はボウルトーナメントに、敗者はシールドトーナメントに進出する。

③ 各トーナメントごとに、優勝、準優勝、3位(2チーム)を決定する。

④ トーナメント戦で同点の場合は下記のように勝者を決定する。

a 準決勝までは前半3分-後半3分の延長戦を行う(前半と後半でコートチェンジを行いインターバルはなし)。

延長戦でさらに同点の場合、主催者の定める方法による抽選を行う。

b 決勝戦では両チーム優勝とする。延長戦等は行わない。

## 第 11 回大会 決勝大会 競技規則

---

### 1 チームサイド(ベンチ・グラウンド)/キックオフ/ビブスについて

- (1) チームサイド(ベンチ/グラウンド)は、対戦表の左側チームが、メインスタンドからグラウンドを見て左側。
- (2) 試合開始時のキックオフは、対戦表の左側チーム。
- (3) ビブスは、1番から順に着用すること。

### 2 プレーの方法

- (1) 前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行います。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行います。
- (2) 試合中、二本のタグを左右の腰に一本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができます。

### 3 アドバンテージ

反則が起きても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合があります。

### 4 得点[トライ]とその後の再開

- (1) 左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール(ゴールラインを含む)にボールを着けると1点が得られます(「トライ」といいます)。
- (2) レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られた、と判断した場合、トライ(「ペナルティトライ」)を与えます。
- (3) トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行います。
- (4) 次の場合、トライは認められません。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開します(タグの回数は継続します)。
  - ① ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
  - ② インゴールでタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。

[補足] このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。

### 5 タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立です。

- (1) タグが起きたら、プレーヤーは次のことをしましょう。
  - ① タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスします。
  - ② タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返します。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けます。
- (2) 防御側がタグを4回取ったら攻守交代です。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開します。
- (3) タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取れます。

### 6 オフサイド(反則)

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインができます。

- (1) オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がります。
- (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにします。

### 7 ノックオン・スローフォワード(反則)

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックオン」といいます。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」といいます。

## 8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2m以内にいるプレーヤーにパスをすることです。

- (1) フリーパスは、前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われます。
- (2) フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点から5m下がります。ボールがパスされれば、前を出てもかまいません。
- (3) インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われません。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、ゴールライン前5mの地点から行います(「5mフリーパス」といいます)。

## 9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となります。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行います。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れます。

## 10 インゴール、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開します。
- (2) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5mフリーパスで再開します。

## 11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはなりません。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられます。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかかわす以外の方法で、相手がタグを取るのを邪魔すること。
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

## 12 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開します。その時、タグの回数は継続します。

### 前大会からの変更点

#### ■前大会

##### 1 試合開始前に決めること

双方のチーム代表プレーヤーがトスをします。勝った方のフリーパスで試合を開始します。

主催者が指定するトスの時間に間に合わないチームがいた場合、もう一方のチームにフリーパスの選択権が与えられます。両チームが間に合わない場合は、主催者がトスを代行します。



#### ■今大会

##### 1 チームサイド(ベンチ・グラウンド)/キックオフ/ピブスについて

(1) チームサイド(ベンチ/グラウンド)は、対戦表の左側チームが、メインスタンドからグラウンドを見て左側。

(2) 試合開始時のキックオフは、対戦表の左側チーム。

(3) ピブスは、1番から順に着用すること。

#### ■追加事項

##### 4 得点[トライ]とその後の再開

(4)の最後に補足を追加

[補足] このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。

# サントリーカップ全国小学生ラグビー選手権大会

## 決勝大会規則・競技規則補足

この「補足」は、全国小学生ラグビー選手権大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にラグビーを楽しめる環境を作るため、以下についてご理解並び周知、ご指導いただきたく、お願い申し上げます。

### 1 試合進行に対する悪質な妨害について〔大会規則3(4)(5)、7(4)(5)〕

- (1) レフリー(アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーも含む)並びに競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。
  - ① 時間を空費する行為
  - ② 故意の反則
  - ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
  - ④ 暴力行為
  - ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
  - ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーへの暴言
  - ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーが試合進行の妨げになると判断した行為。
  - ⑧ レフリーのコールをすること。  
→罰:プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。
- (2) 試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。
  - ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
  - ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする(タグの回数は継続)。アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
  - ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。
- (3) 退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について
  - ① 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
  - ② 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

### 2 タグラグビーのプレーについて

- (1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。
  - ① ボールを持って自由に動くこと。
  - ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること〔パス〕。
  - ③ 空中にあるボールを捕球すること。
  - ④ 地面にあるボールを拾うこと。
  - ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
  - ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。
- (2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。
  - ① 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。
  - ② ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
  - ③ ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる〔スローフォワード〕。
  - ④ 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす〔ノックオン〕。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
  - ⑤ 相手をかわす以外の方法でタグを取ることを妨げる。
  - ⑥ 相手のボールを奪う
  - ⑦ あらゆる種類のキック。
  - ⑧ レフリーのコールをすること。

### 3 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

#### ① ボールを持っている時

- ・ 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ・ 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
  - 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
  - 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
  - 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
  - タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
  - タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
  - 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために1回転以上回転する。等

#### ② 防御するとき

- ・ タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ・ ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
  - タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
  - タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
  - 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
  - ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
  - ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
  - ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
  - 両手を広げて防御をする。
  - タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

### 4 タグ並びにタグの返し方

- (1) プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。
- (2) タグを相手に返すときは、必ず手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。
- (3) タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。

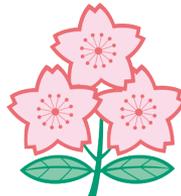
### 5 フリーパス時の注意

- (1) フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。
- (2) レフリー並びにアシスタントレフリーは、防御側プレーヤーの後退並びに静止を確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- (3) 防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー並びにアシスタントレフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。

# サントリーカップ 全国小学生タグラグビー選手権大会 レフリングガイド



公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会  
普及・競技力向上委員会 普及育成部門  
(監修 審判委員会)  
2014.7.6 発行



# 目次

はじめに(基本的な考え方)	1
1. タグラグビーの魅力を引き出すために	
①身体接触(コンタクト)のないゲームにする	
◆〈前提〉攻守双方ともに、接触を避ける	2
◆〈レフリーにできること〉	3
◆〈コンタクト発生時の判断・判断基準〉	4
②プレーの継続を支援する	
◆〈オフサイドとオーバーステップについての共通理解1~3〉	5~7
◆〈アドバンテージについての共通理解1~2〉	8~9
2. 実際のレフリングにあたって	10
①競技規則の理解②タグラグビーゲームの理解	11
③準備	12
④試合中	
◆レフリーの態度	13
◆フリーパス(ゲームの開始、再開)	14
◆ポジショニング・ランニングコース	15
◆タグ	16
◆その他	17
◆アシスタントレフリー(AR)との連携	18~21
まとめ	22~23
お問い合わせ先	24

# はじめに(基本的な考え方)

レフリー(含アシスタントレフリー)の役割

❖「タグラグビーの魅力」を引き出す

〈条件〉

- ・身体接触がない
- ・プレーの継続
- ・ラグビー精神が反映されている

「やって楽しく、見ておもしろい」ゲームになるような、環境作り。

※「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権競技規則」の一部は、この大会のためだけの特別な競技規則です。



# 1. タグラグビーの魅力を引き出すために

## ①身体接触(コンタクト)のないゲームにする(1)

### ❖〈前提〉攻守双方ともに、接触を避ける

- ・相手選手がぶつかってこない、と信じているから安心し、思い切ってプレーができる。
- ・これを否定する行為、つまり、「接触してもよい」と考えて行う行為は、タグラグビーの成り立ちそのものの否定である。

レフリー、プレーヤー、コーチ、全ての関係者がこの前提を共有し、プレーやレフリングに反映させることが、魅力的なゲーム作りにつながる。

**レフリーは、故意の接触を許してはならない。**

# ①身体接触(コンタクト)のないゲームにする(2)

## ❖〈レフリーにできること〉

※本資料においては、攻撃(側)・防御(側)を以下のように定義します。

攻撃(側)…ボールを保持しているプレイヤーおよび  
そのプレイヤーが属するチーム。

防御(側)…攻撃(側)に対するプレイヤーおよび  
そのプレイヤーが属しているチーム。

- ・接触が予見される場面で回避をうながす。  
例:「よけて」「かわして」などの声をかける。
- ・身体接触に対して、的確に判断・判定をする。
- ・コンタクトを起こす、あるいは誘発するプレーを行う傾向のあるプレイヤー、チームに注意をする。



# ①身体接触(コンタクト)のないゲームにする(3)

## ❖〈コンタクト発生時の判断・判定基準〉

相手をかかわす、あるいは相手から逃げるプレイヤーは接触を起こさない。

(原則) 接触の原因が…

- ・攻撃側が防御側の方に向かって走る(含、直進)。→**攻撃側の反則**
- ・防御側が攻撃側の進路をふさぐ(攻撃側の進路の直前をさえぎる)、体を当ててタグを取る、飛び込んでタグを取る。→**防御側の反則**

接触によって「プレイヤーの安全が脅かされた」「プレーが停止した」と判断したら、レフリーは速やかに競技の停止を命じ、相手側に攻撃権を与える。

「プレイヤーの安全が脅かされた、とは言えない」または、「プレーは継続できている」と判断できる状況では…**アドバンテージ**の活用。

## ②プレーの継続を支援する(1)-1

### ❖〈オフサイドとオーバーステップについての共通理解1〉

攻撃側は(自らミスを犯さない限り)、  
4回攻撃を(「タグ」のあと、パスが)  
できる(攻撃権の保障＝攻撃側の権利)。

※ミス...ハンドリングエラー(含インターセプト)、タッチ、コンタクト

防御側プレイヤーに許された、攻撃側プレイヤーの前進を止める方法は、  
オンサイドの位置からタグを取ることのみである。(防御側の義務)

タグの後、防御側プレイヤーにはタグを取られたプレイヤーがパスをする  
位置より自陣ゴール側に戻って相手に攻撃させる義務が生じる。  
(戻りきれない場合は、相手の攻撃を阻害してはならない)。  
→これに反する行為が「**オフサイド**」

## ②プレーの継続を支援する(1)-2

### ❖〈オフサイドとオーバーステップについての共通理解2〉

防御側は、正当にタグを取ること(オンサイドの位置にいるプレーヤーが、身体接触及びそれに類する行為をせずにタグをとること)で、  
…攻撃側の地域的な前進を止められる。  
…4回の「タグ」で相手から攻撃権も奪える(防御側の権利)。

※1～3回目のタグで奪えるのは、ボールを持ったプレーヤーが地域的に前進する行為であることに注意

攻撃側プレーヤーがタグ後にできるのは、地域的に前進せずにパスをすることのみである(攻撃側の義務)。

タグの後、攻撃側プレーヤーは地域的に前進せずに攻撃を継続する義務がある。  
→これに反する行為が「**オーバーステップ**」(攻撃側のオフサイド)。

## ②プレーの継続を支援する(1)-3

### ❖〈オフサイドとオーバーステップについての共通理解3〉

「タグ」後の行為が…

- ・地域的な前進を目的としていないこと（オフサイドラインを相手ゴール側に押し上げることをねらいとしない）。
- ・身体接触を誘発しないこと。
- ・ただちにパスによる攻撃を企図していること。



以上であれば、レフリーは攻撃権を尊重する。



## ②プレーの継続を支援する(2)-1

### ❖〈アドバンテージについての共通理解1〉

※アドバンテージが適用されない行為

- ・プレーヤーが危険にさらされる(おそれがある)。
- ・正当なタグ以外の行為(身体接触など)で攻撃権が奪われている。
- ・レフリーにボールが当たる。ボール、あるいはボールを持ったプレーヤーがタッチに出る。

防御側の行為に見合った「**アドバンテージの適用**」を心がける。



その行為がなければ、目の前で起きていることよりも、  
(間違いなく)より効果的な攻撃ができたか？  
という規準で判断・判定する。



## ②プレーの継続を支援する(2)-2

### ❖〈アドバンテージについての共通理解2〉

防御側の行為に見合った「アドバンテージの適用」を心がける

例) 同じ「オフサイド」でも…

- ・攻撃側に与える影響が軽微…**アドバンテージの解消は早めに。**
  - ・オフサイドのため攻撃側は本来意図した攻撃ができていない（攻撃は継続）。
- ⇒攻撃の機会を与える。  
「地域的な前進」が得られなければアドバンテージがあったとは認めない（**ノーアドバンテージ**）。

建設的なプレーを支援する

## 2. 実際のレフリングにあたって

①競技規則の理解

②タグラグビーのゲームの理解

③準備

④試合中

(含、アシスタントレフリー(以下、「AR」)との連携)



## ①競技規則の理解



「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権競技規則」の一部は、この大会のためだけの特別な競技規則です。

## ②タグラグビーのゲームの理解



「タグラグビー」はラグビーの特性を生かして作られたボールゲームです。  
ゲームの特性をよく理解してレフリングしてください。

### ③準備

- ・フィットネスおよびランニング能力の向上  
⇒良いポジショニング、テンポの良い試合運営のために
- ・服装(選手と同様に颯爽とした姿に見えるものを)  
⇒選手と試合に対するリスペクト
- ・笛(長・短、強・弱、等の区別を付けて吹けるように)  
⇒笛によるゲームのコントロール



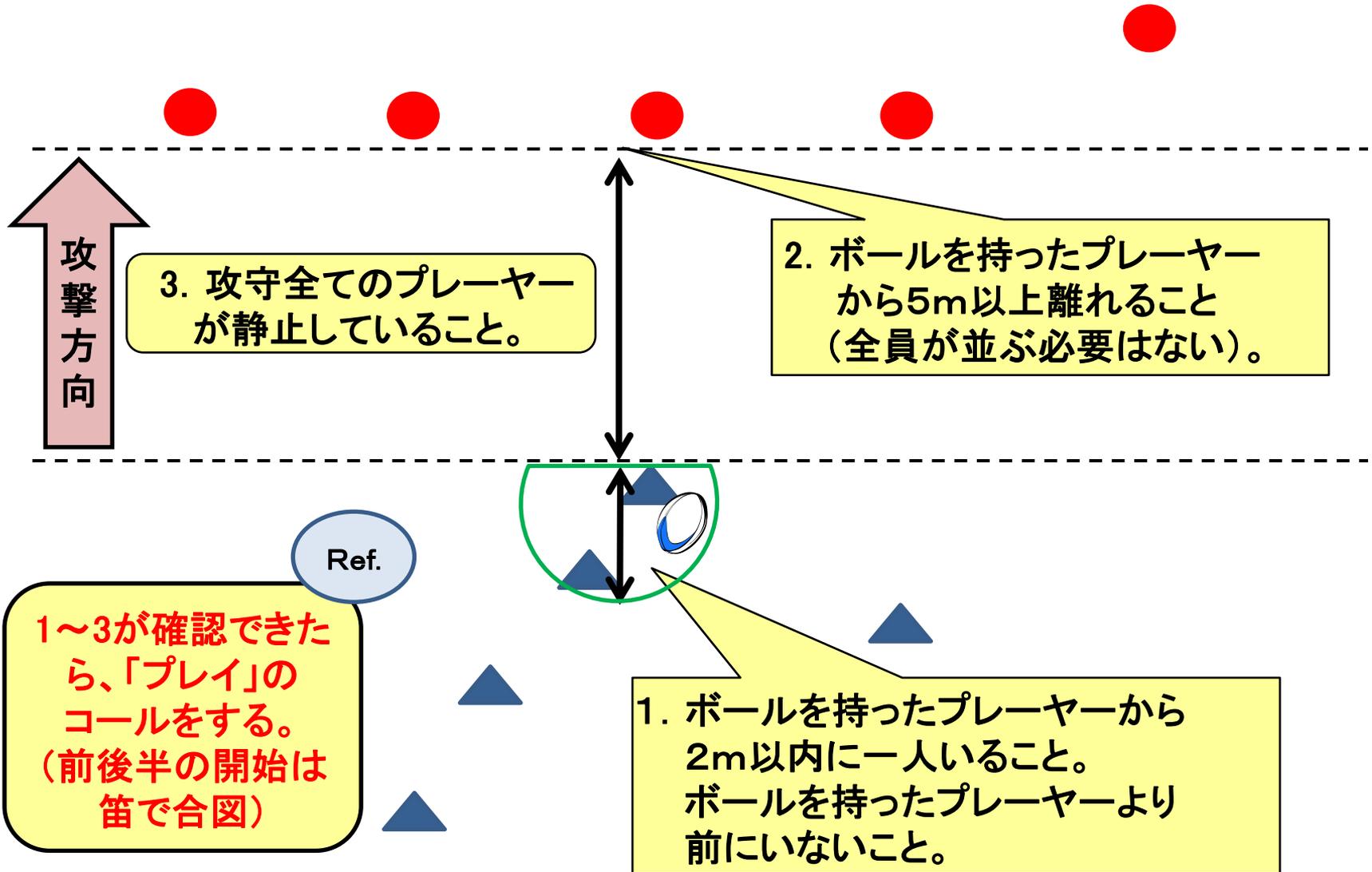
## ④試合中 …レフリーの態度



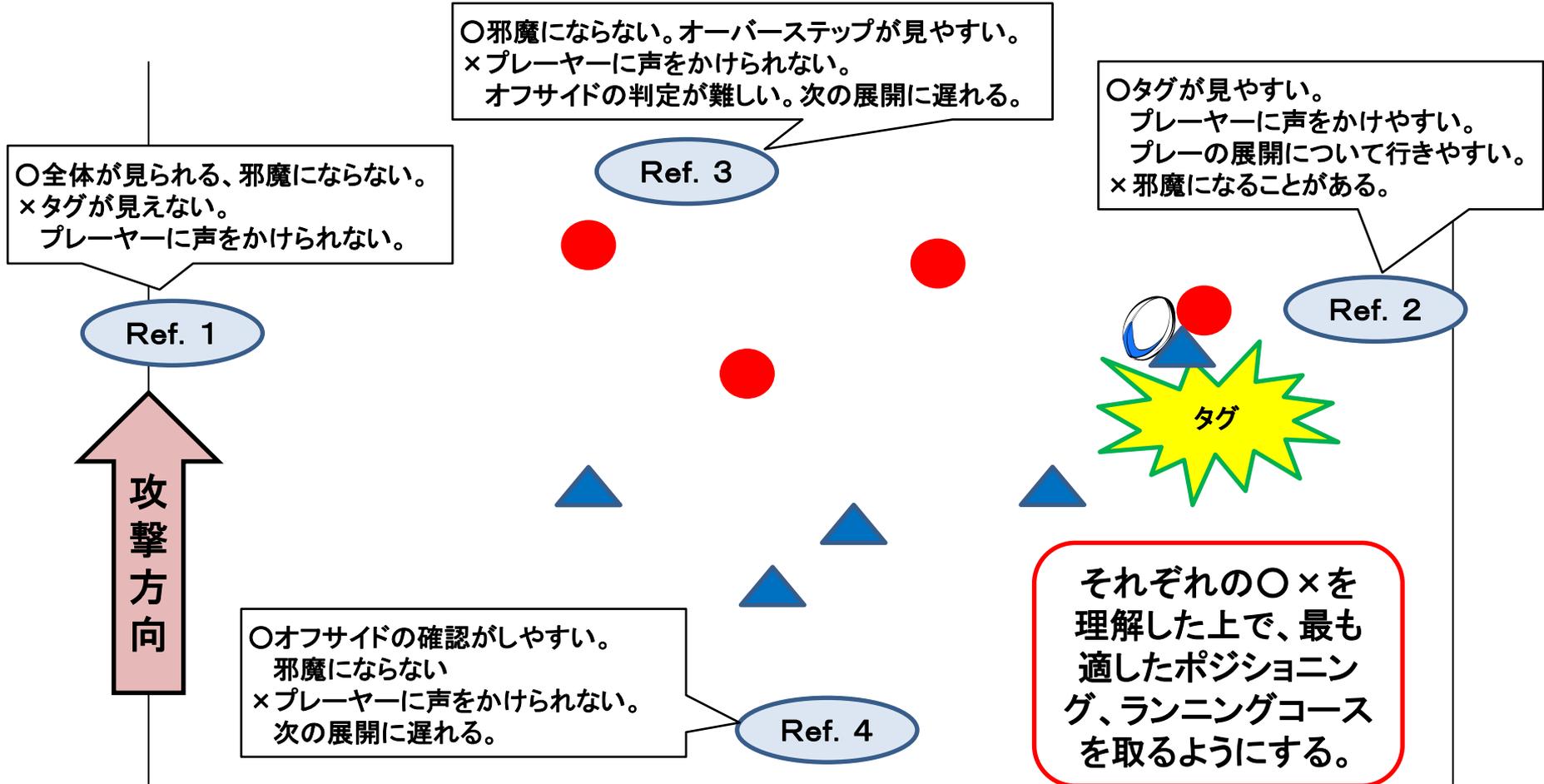
- 毅然とした態度(ただし、高圧的でなく)。
- 笛とシグナル(大きく、はっきり)、「タグ、1」等のコールで、何が起きたのかを誰もが分かるように伝える。
- 選手とのコミュニケーションは「『強いメッセージ』を『優しい、短い言葉』で」。
- 表情は穏やかに、ただし、ゲームをスポイルする行為や言動には厳しく。



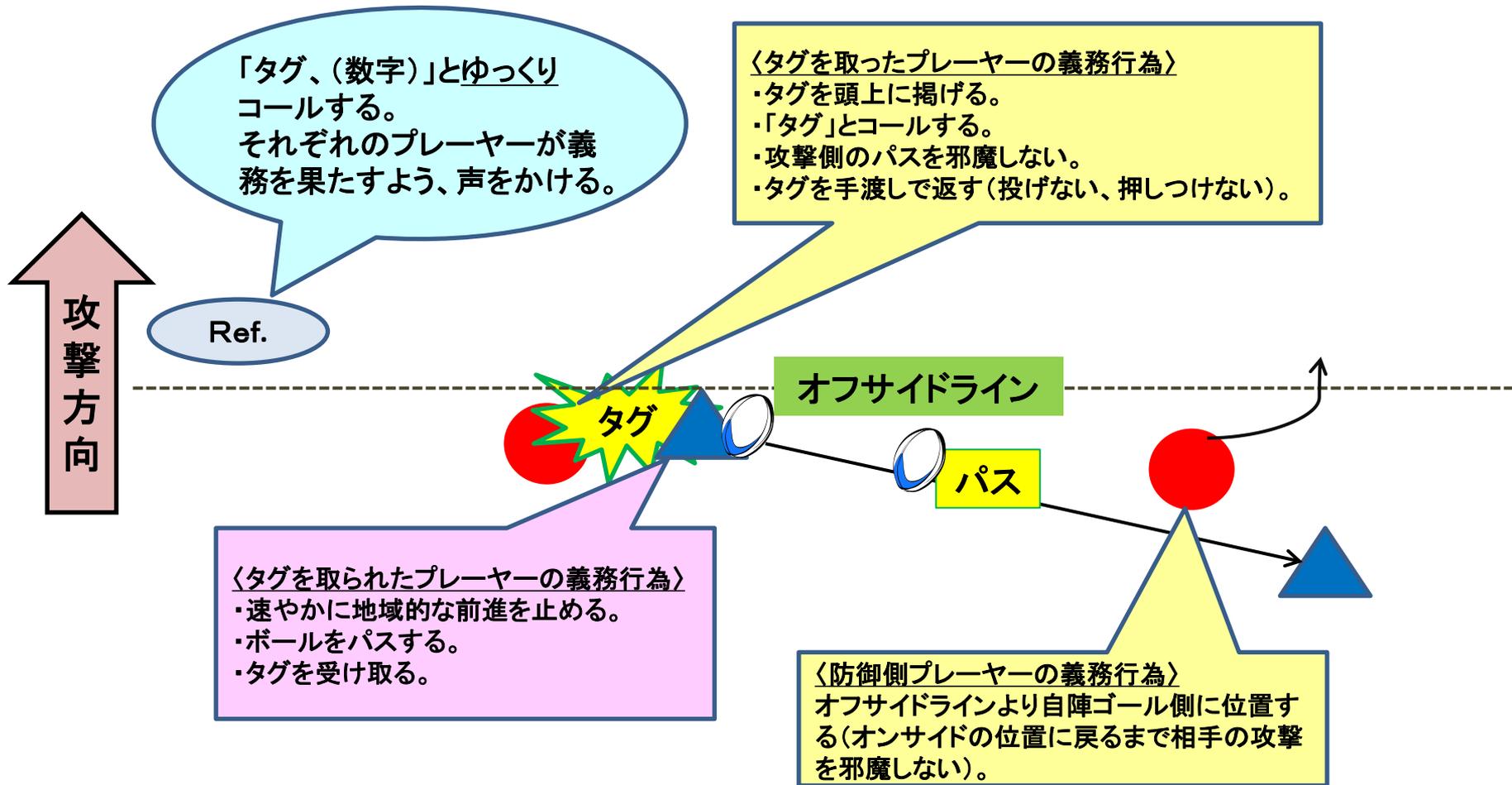
# ④試合中 …フリーパス(ゲームの開始、再開)



# ④試合中 …ポジショニング・ランニングコース



# ④試合中 …タグ



## ④試合中 …その他

- コーチの不適切な言動は、AR、競技役員と連携して対処する。
- 反則を見つける、取り締まるよりも、よいプレーができるように環境を整えるようにする。



## ④試合中 …アシスタントレフリー (AR) との連携(1)

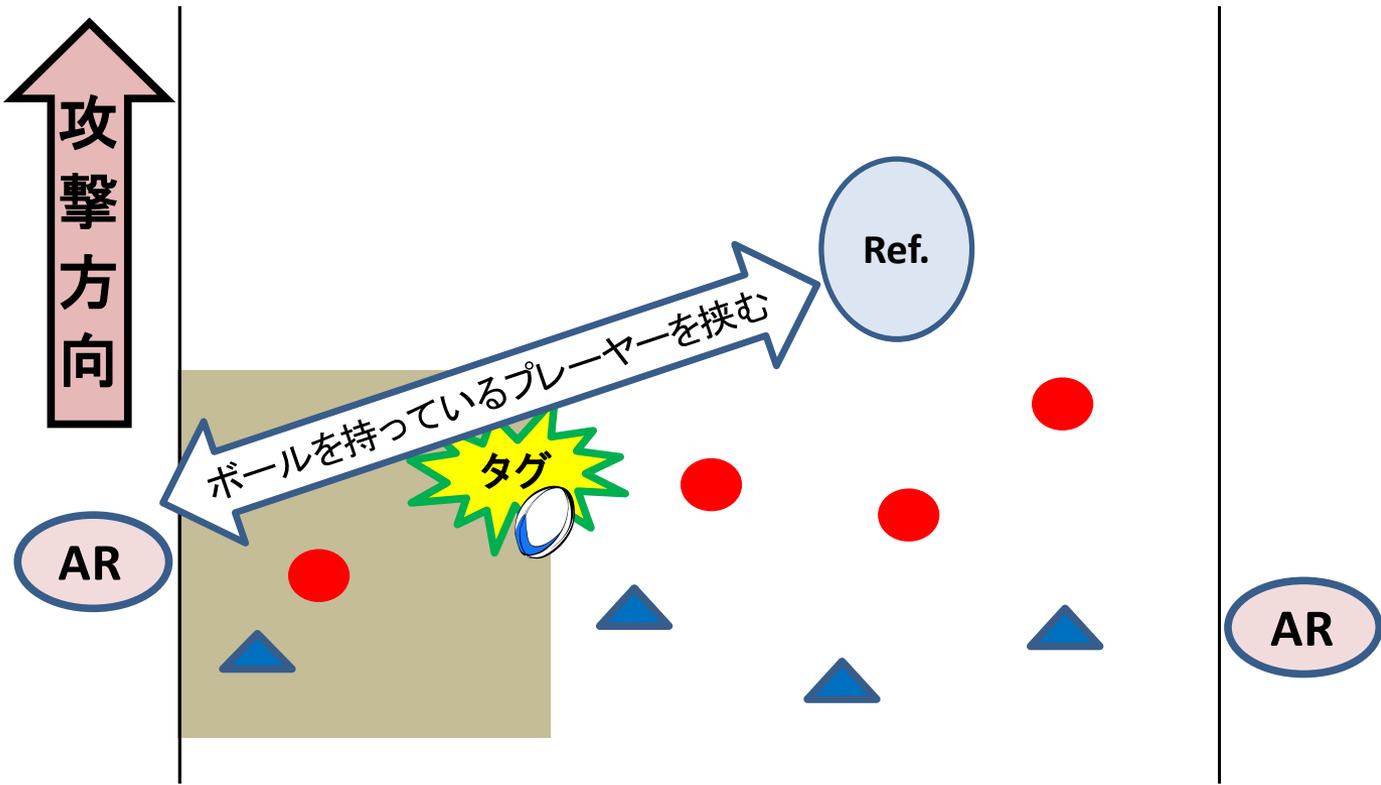
### (1) ARとの連携のポイント

- I. 試合前に、レフリーとARとで、「何を」「どのようにして伝えるか」を打ち合わせしておく。
- II. ARの旗が上がったら(あるいは、上がっている間は)試合の進行を止める(開始しない)。ARも旗を上げたがプレーが続いているときなどは、反対側のARも旗を上げ、レフリーに試合の停止を促す。
- III. ARは以下の時、旗を上げてレフリーに試合進行の停止を要求する。

### (2) ARが注視するポイント

- I. フリーパス時にDFプレーヤーがオフサイドラインまで下がっていない。
- II. フリーパス時に、DFプレーヤーが制止していない。ボールまたはボールを持ったプレーヤーがタッチラインに触れる、またはタッチに出る。
- III. タグを正しくつけていないプレーヤーがプレーに関与する。  
(ボールに触れる、ボールを持ったプレーヤーのタグを取る)
- IV. その他、そのまま試合を進行させるのが不相当と思われる事象が生じたとき(レフリーの目視できない位置で反則した側が有利に展開している状況、コンタクトによる攻撃権の入れ替わり、負傷、ファールプレーなど)。

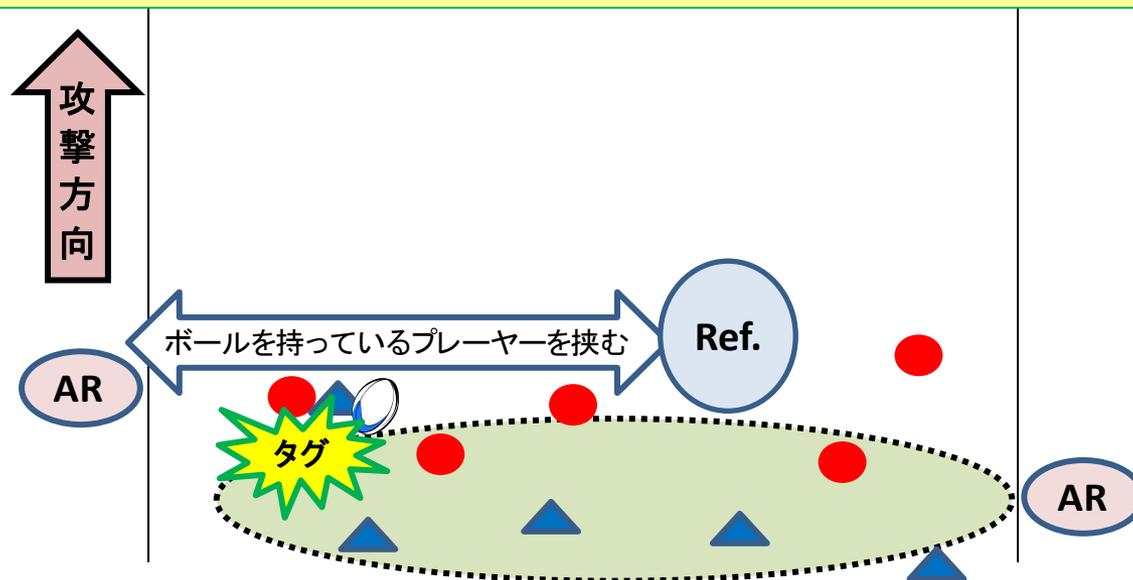
# ④試合中 …アシスタントレフリー(AR)との連携(2) - ポジショニング -



※Refの見えにくいところ、ハンドオフ、コンタクト、オフサイド等 要注意。

## ④試合中 …アシスタントレフリー(AR)との連携(3)

特に、ファールプレー(含「タグの受け渡し」)は、レフリーが目視できない場合が多い。悪質な行為については、ARは試合の展開を見定めてから旗を上げ、レフリーに競技の停止を求める。



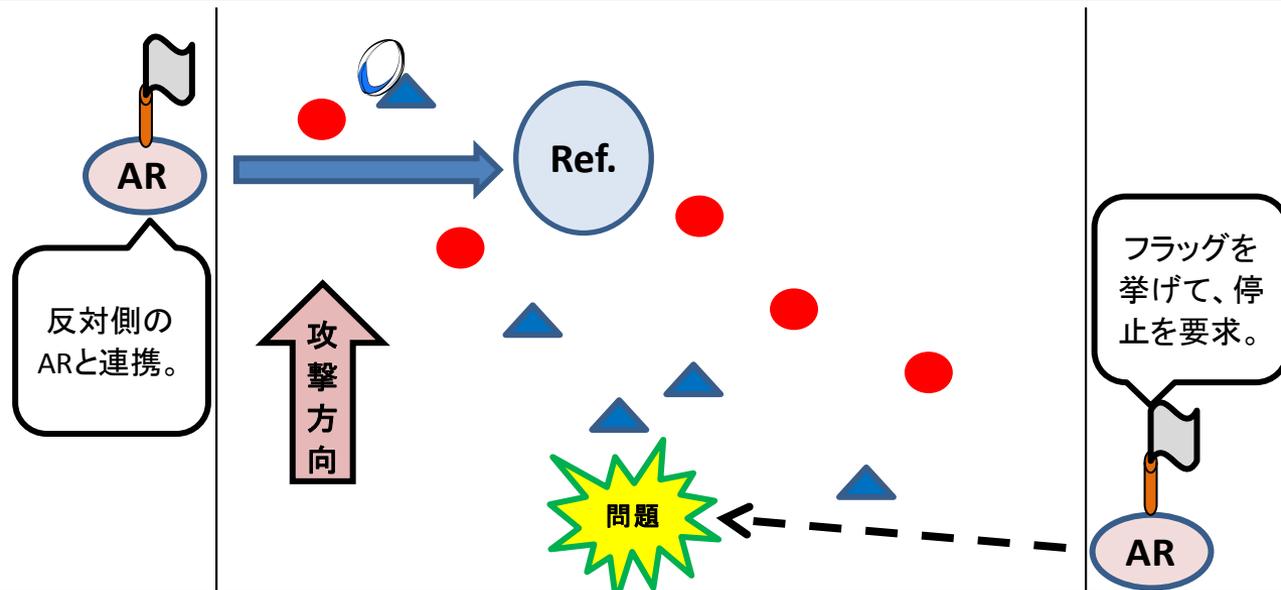
※タグ後のタグ受渡し、タグの落下等に注意。  
問題がなければ、ボールの方向へ。

- I. タグをとった側も、とられた側も静止していること。
- II. しっかりと手渡しで行われていること。  
(×押しつけ、投げつけ、投げ捨て、故意に受け取らない)
- III. 乱暴な言葉づかいでのやりとりがないこと。

## ④試合中 …アシスタントレフリー (AR) との連携(4)

レフリーの目視できない位置で起きた事象を理由に競技停止を求めたARは、以下の要領でレフリーに情報を提供する。

☆最終的な判断はレフリーが行う。ARはレフリーのアシスタントであることに留意する。



- I. どこで
  - II. 何色のどの(何番の)プレイヤーが
  - III. 相手のどの(何番の)プレイヤーに対して
  - IV. 何をした
  - V. (ペナルティとして)何(退場、注意、など)に相当する
- ※ II、III、Vはファールプレーの場合

# まとめ

## ❖〈「ラグビー憲章」の理解〉



**品位・情熱・結束・規律・尊重**

ラグビーには勇気、忠誠心、スポーツマンシップ、規律、そしてチームワークといった多くの社会的・情緒的概念が包含されている。

伝統的なスポーツの特質の多くが弱められ、あるいは疑われる時代にあって、高い水準のスポーツマンシップ、倫理的な行動、そしてフェアプレーを維持する能力をラグビーが有することを、ラグビーは真に誇りに思う。

〈IRB『ラグビー憲章』より抜粋〉

## ❖〈ラグビー精神の反映〉

☆相手を不愉快にさせる行為、見ている人たちが眉をひそめるような言動から、尊敬や品位が生まれるでしょうか？

☆お互いが「守るべき一線」を共有し、順守するから、ダイナミックで、スキルフルなプレーが生まれ、そこで起きた出来事も「お互い様」で受け入れられる。

レフリーは、ラグビー精神を発揮する行為を支援する



## ❖〈レフリングガイドに対するお問い合わせ先〉

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会  
普及・競技力向上委員会 事務局 普及育成部門  
TEL: 03-3401-3289  
FAX: 03-5775-5034

サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会  
事務局  
TEL: 03-5777-6625  
FAX: 03-5777-5351

No Side!



★大会規則 補足資料

4 プレーヤーの服装

①チームで統一された、運動に適した服装（学校体操着など）

運動靴またはトレーニングシューズ。スパイクの類は認めない※詳細は別紙資料 1 を参照

※具体的には下記のような靴裏（ソール）にご注意下さい。

■規則に反しない例



■規則に反する例



みんなで一生忘れない  
ものがたりをつくろう！

# サントリーカップ 第11回全国小学生 タグラグビー 選手権大会

大会参加者全員に  
サントリーサンゴリアス  
キーホルダーを  
プレゼント！

※キーホルダーのデザインはイメージです。

## 決勝大会

期 間 平成27年3月

※決勝大会出場選手交通費は主催者側で一部負担

## 大会概要

主 催 (公財)日本ラグビーフットボール協会

主 管 関東ラグビーフットボール協会  
関西ラグビーフットボール協会  
九州ラグビーフットボール協会

後 援 文部科学省／朝日新聞社／朝日学生新聞社

特別協賛 サントリーホールディングス株式会社

協 賛 株式会社シミズオクト

## 予選大会

期 間 平成26年10月～平成27年1月

会 場 全国各地にて開催

協 力 サントリーサンゴリアス

競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会  
タグラグビー標準競技規則に準ずる

出場資格 小学生4～6年生(日本の学期制による)  
1チーム・7～10人とする

大会方式 全国の各ブロック代表が決勝大会に出場する

## 大会についてのお問い合わせ

■関東ラグビーフットボール協会  
TEL:03-3423-4421 E-mail:info@rugby.or.jp

■関西ラグビーフットボール協会  
TEL:06-6376-0456 E-mail:krfu@mbf.sphere.ne.jp

■九州ラグビーフットボール協会  
TEL:092-715-8172 E-mail:krfu@i-kyushu.or.jp

■サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会事務局  
〒105-0004 東京都港区新橋5-9-1 新橋5丁目ビル1F CIC内  
TEL:03-5777-6625 FAX:03-5777-5351 E-mail:tagrugby@cicinc.co.jp

■(公財)日本ラグビーフットボール協会  
〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35  
TEL:03-3401-3290 FAX:03-3401-6610